

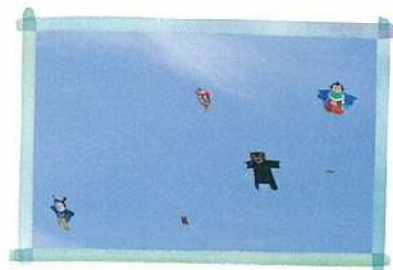



ソコアゲ
2017

認定 NPO 法人 底上げ
年間活動報告書

contents

- 03 理事長挨拶
- 04 フィロソフィー
- 05 スタッフ紹介
- 06-07 気仙沼
- 08-09 南三陸
- 10 仙台
- 11 出張ワークショップ
- 12-13 SOKOAGE CAMP
- 14 農業部
- 15 NEWS
- 16-17 対談
- 18 応援コメント
- 19 会員からのメッセージ
- 20 助成・寄付団体・メディア
- 21 収支報告
- 22 認定 NPO 法人底上げについて
- 23 会員制度について





毎回報告書のこの挨拶文を考えるたび、
思うことがあります。

それは「**申し訳なさと感謝**」です。

申し訳ないという気持ちは大したことが
できてないなあと思う気持ち。

感謝は今まで支えていただいたみなさま

一人一人にです。

それが素直な気持ちです。

まだまだ僕たちだけでは限界があります。

さらに大きなうねりとなるよう、ご一緒
できれば幸いです。

7年を振り返り8年目に向けた決意とともに。

理事長 矢部寛明

ソコ
アゲ

SOKOAGE
PHILOSOPHY

できる感覚を
うごく楽しみを
生きる喜びを

全ての若者に



矢部寛明

2011年3月気仙沼入り。2012年底上げを創設。緑の下の力もちに憧れつつも結局担がれるタイプ。自由で柔軟な発想で新しく事業を生み出す係。

2018年の目標は「江川結婚」

江川沙織

仙台市出身。銀行員、財団職員を経て2016年から底上げに参画。仙台でのDrinks開催の他ワークショップの企画、その他雑務全般、主にこぼれ球を拾う役割。

2018年の目標は「なるべく作る」。

成宮崇史

立教大学卒業後、児童養護施設で勤務。カフェやバーの仕事を経て、震災後、気仙沼にボランティアとして入りそのまま移住。気仙沼を中心に、高校生、町の活性化のため日々全力で走り続けている。2018年のスローガンは「革命」

野田篤秀

神奈川県出身。大学時代は教育を専攻。卒業後、底上げに参画し南三陸を担当している。2018年の目標はこれまでの活動のまとめと子ども用の教育教材を作ること。それと高校の部活引退後から発生している肩の痛みをどうにかしたい。

斉藤祐輔

2011年4月に気仙沼入り、その後1年半海外を放浪。帰国後底上げに復帰し組織運営とSOKOAGECAMPや気仙沼マイプロなどワークショップの企画運営を行う。2018年の目標は「学び直しと新しく創る」

「2017年の一句」

「子が生まれ
名前を決める5人組」

「2017年の一句」

「インフルで
想定外がまたひとつ」

「2017年の一句」

「近き日に
大きなうねりをこの町に」

「2017年の一句」

「カビの匂い
知らずに怒られ普通とは」

「2017年の一句」

「相棒が
結婚出産嬉し泣き」



高校生サポート



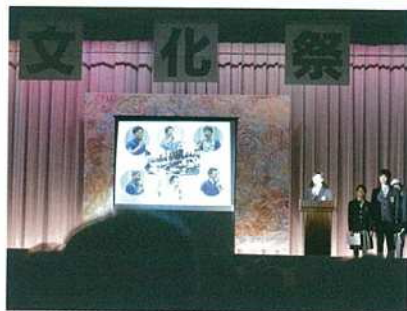
底上げ Youth を中心に、気仙沼高校の授業と連動もしながら、2017年度も多くの実践を伴うプロジェクトが実施されました。自分のやりたいことと、誰かのため、町のためになることを掛け合わせて、高校生が本気で自分のプロジェクトに取り組んでいます。

キャリアセミナー



今年で2年目となる、NPO 法人ハーベストと協働で行っている市内高校でのキャリアセミナー。今年は統合に向けて、気仙沼高校、気仙沼西高校の全1年生に対して、市内30名ほどの講師の方に協力いただき、少人数での人生観、仕事観を語り合う時間を作りました。

新月中学校総合学習



気仙沼市立新月中学校



気仙沼の新月中学校3年生の総合学習の授業をコーディネートさせていただきました。市内5つの事業者さんから生徒達に事業の課題に基づくミッションを与えていただき、フィールドワークやワークショップを通してそのミッションを達成していく授業を約5ヶ月間実施いたしました。市内での協働や中学生の可能性を多く感じる実りある授業になりました。

気仙沼まち大学



気仙沼において、学びと対話を通し、共創、協働を行う住民参加を目指す「まち大学構想」。その実現に向け、市民一人ひとりが一歩踏み出し、またお互い応援し合う機運を作るべく、まち大学運営事務局のメンバーとして日々邁進しております。市内で新しいことにチャレンジする人、応援する人が増えていくイベントなども行っています。

気仙沼の高校生 マイプロジェクトアワード



ついに、気仙沼市役所と気仙沼市教育委員会、市内の子どもに関わる数団体による、高校生の主体性教育のための協働事業がスタートしました！これからもこの教育の取り組みや連携の形がしっかりと町の仕組みとなるように努力していきます。

底上げDrinks



2017年度末をもって、記念すべき30回目を迎えた「底上げDrinks@気仙沼」2017年度は、高校生のプレゼンや、市内の他のイベントとの協働を中心に実施してまいりました。これからも高校生と地域の方との楽しい形での繋ぎを実施していきます。

Narumi Yoshida
吉田成希
気仙沼高校3年



私は高1の秋頃に底上げYouthに入りました。Youthでの活動を通して様々な人と関わり、より気仙沼に触れていくうちに、気仙沼が大好きになりました！自分達の力で地元のためにできることがあるのだと実感し、行動できていることがYouthに入ってから自分の大きな成長、励みになっていると思います。高校生の視点で、高校生にできることを、これからも皆でワクワクしながら活動していきたいです！

Rinka Sasaki
佐々木梨花
気仙沼高校3年



私は底上げYouthに入ってから、初めて気仙沼をもっと知りたい！関わりたい！と思いました。そして、考えたアイデアを発表したり行動に移す中で様々な大人や高校生が「それ、すごくいいね！」と、褒めてアドバイスをくれます。その言葉が私にやる気と自信を与えてくれます。私は、そんな素敵な人と言葉に支えられてとても楽しく活動しています！

Shun Kobayashi
小林峻

気仙沼まち大学運営協議会コアメンバー
一般社団法人まるオフィス 理事



震災から丸7年が経過し、気仙沼市は復旧期から、その次の復興・創生期へと向かっています。その際に、最も大切なことが「気仙沼で暮らす人がワクワクと、楽しくまちを創っていく」ことであり、底上げさんの活動はまさにその根幹を形作る取り組みになっています。私が底上げさんと一緒にしている、まち大学推進協議会の活動は、「まちを良くするそれぞれの一歩を応援する」ことをミッションに、地域内での挑戦を増やす取り組みであり、その先頭を常に走ってくれる底上げさんの姿に感謝しつつ、これからの協働により大きな期待をしています。



まちづくりカフェ



新しい取り組みとして志津川高校に6月に併設された町営塾「志翔学舎」でキャリア教育支援を行いました。まちづくりカフェと称し、地域の課題に対してプロジェクトを考え、行動を起こしていくというものです。発表の機会として議会を使い町長始め町役場の全管理職のみなさんに向けて発信しました。

自然科学部



昨年から引き続き、志津川高校の自然科学部の地域活動のサポートを行いました。町の農林水産課からのサポートもいただき、震災によって復元し、守られた干潟の調査を行いました。また、その干潟の重要性を多くの方に届けるために一緒に冊子作りを行いました。

底上げ Drinks



町内のまちづくり団体との合同ワークショップ、石巻の高校生との交流会など今年度もたくさんの方のご協力をいただきました。

Misato Oyama

小山美里

東北福祉大学1年



まちづくりカフェでは地元や社会について深く知る機会になりました。私は底上げで沢山の方とお会いし、自分の視野を広げることができました。このような機会は底上げがあったからこそできた経験だと思っています。

Mina Sato

佐藤美南

東北学院大学3年



初めて合宿を企画させていただきました。企画をするにあたって知らないことだらけでした。そのような中でもスタッフの方には全力サポートをしていただきました。また、底上げが企画するイベントに参加し、参加すればするほど自分にとっては収穫するものが多く濃く、自分にとっても実りのある活動をすることができました。

OBOG



高校生団体を卒業した OBOG も定期的に町に関わってくれました。具体的には夏祭りのトコヤッサイコンテストの企画運営、町内の音楽フェスへ出店、卒業を控えた現役の高校生に将来のことを考えるワークショップ合宿の企画など、自分たちの立場が活きるような取り組みを進めてくれています。

復興創生インターン



復興庁の復興・創生インターン事業に於いて、南三陸町内の企業へのコーディネートを株式会社 ESCCA と協働で行いました。夏と春合わせて 19 名の大学生が町内の 11 社で 1 ヶ月間のインターンシップを行いました。事前に設定されたミッションをクリアするために町を駆け回っていました。

Takuzo Abe
阿部拓三



南三陸町農林水産課任期付研究員

底上げメンバーが生徒たちと時間を共有しながら、生徒の視点で考え、行動していく姿勢が印象的でした。生徒の思いや考えを具体化するサポートの継続こそが、長い目を見た町づくりに大きく貢献すると期待しています。

Haruka Koizumi
小泉晴香



宇都宮大学 4 年

私にとって、ほとんど全てが挑戦でした。商品開発も、マーケティングやニーズ調査もこれまで一度も経験したことがありませんでした。けれど、この町にはそんな私の挑戦を支えてくれる人がたくさんいました。共に考え悩んでくれる仲間もいました。苦しい時も少なからずありましたが、最終報告会で頂いたたくさんの拍手は忘れられません。

ばくしょん



本年度、実験的に実施してきました、大学生以上を対象とした行動する学舎。半年にわたり7人の参加者が毎月一回集合し、語り合い、それぞれの場所でアクションを起こしていきました。2018年度より正式にプログラム化決定！

底上げ Drinks



高校生と大人が緩やかにつながる機会として、気仙沼、南三陸に続いて仙台でも月1回開催しました。定期的な開催により毎回参加する高校生や大学生が増えてきています。今年度の半ばから飲食よりも交流する時間を重視して開催しています。年代を越えての交流や、様々なキャリアを持つ大人からのお話を聞く機会、高校生や大学生のプロジェクトの発表の機会としても活用されました。

Chifuyu Saito
齊藤千冬
福島大学4年生



私がばくしょんに参加して変わったことは3つ。「起こすことへの抵抗が自然となくなる」「仮説と検証がくせになる」「小さなことにも疑問を抱く」。ともに挑戦する仲間がいて、一步踏み出せば、それまで見えなかった世界が目の前に広がる。それがもうワクワクで。これからはさらにめまぐるしく変化する時代。でもその変化、楽しめるようになりました(笑)。

Kanna Oota
太田菜菜
東北福祉大学1年



私は Drinks@仙台を通じて高校2年次から「底上げ」の皆さんと関わりがあります。Drinksに参加するたびに学びが深まり、新しい発見、元気をもらえます。人の輪が広がり、生活も豊かになりました。この場は私の third place だと思っています。

出張ワークショップ

東北芸術工科大学



東北芸術工科大学より依頼を受け、新入生に向けて合宿ワークショップを企画運営。入学早々新入生は半年間でやりたいことを描き、合宿後日常の中で実践、9月には学園祭で成果報告会を行いました。

イレギュラーキャンプ



2018年3月、自分たちが望む姿を想像しそれに向かい行動をしながら振り返る、実践型プログラムを実施。高校生から社会人まで8名が集まり、「底上げのフィロソフィーを実践せよ」というお題を受け、2泊3日議論と行動を重ねました。

大人キャンプ



SOKOAGE CAMP を実施している中で大人からもやってほしいとの声が多数あがり、2017年5月に実施。5名の社会人が2泊3日自然に囲まれながら自分の今後のキャリアについて立ち止まり考えられる時間を作りました。

GLA



TOMODACHI 世代グローバル・リーダーシップ・アカデミー（略称 GLA）は TOMODACHI プログラムに参加していた東北の高校生・大学生を対象とするプログラム。主催の米日カウンセラーから委託を受け企画運営を行い、参加した生徒は予測ができない未来を想像し、それに向かうためにはどうしたらいいか答えのない問いをグループで探求しました。

気仙沼を飛び出して各地で底上げのエッセンスが詰まったワークショップを企画・運営しました。



Tom Nakazato
中里 叶夢
玉川大学 1年

「日常が濃くなる！」これに尽きます！
イレギュラーキャンプには日常の中で深く考えることのないことについて考える機会がたっぷりあります。日常生活から隔離された環境で、各々の課題を持って集まった仲間と共に進める底上げから出された課題は自主的に動いてこそ解決できるものです！
「自分って言われた通りにしか動いてないな〜」
「自分って何をやりたいんだろう？」と思っている方にはうってつけのプログラムだと思います！



Kaoru Utada
宇多田カオル

TOMODACHIイニシアチブ
アラムナイマネージャー

底上げの皆さんとはここ3年間一緒に TOMODACHI 世代グローバルリーダーシップアカデミーをコモンアースと共に運営する仲間です。60人の東北出身の高校生とチームを率いる大学生リーダーと裏方に入って全部をサポートする大学生スタッフと共に、3〜4日間のディスカッションやグループワークを経て色々な感情が出てくる中、生徒たちへの寄り添い方に感謝と尊敬を持っています。一つ一つ一人一人と心を向き合っていく姿勢が暖かく、心強くみんなをサポートしてくれたおかげで、年々プログラムがよいものになっていきます。プログラム運営に愛情を注いでくれるスタイルが大好きです。ありがとう！

CAMP SOKOAGE CAMP

3期 Aug. 7-12, 2017

5期 Aug. 26-30, 2017

6期 Feb. 21-16, 2018

7期 Feb. 21-24, 2018

4期 Aug. 15-20, 2017



Camp1 ~ 5期インターン

Satsuki Oka

岡颯紀

宇都宮大学 4年



キャンプでは参加者との交流と気仙沼での生活を通じ、生きる喜びを探る半年間を過ごさせていただきました。仲間、キレイな景色、おいしいご飯というシンプルな豊かさの中でなぜこんなに自分に向き合えるのか。いかに大学生に複雑なものが絡みついているのかと感じました。私とその紐を解くお手伝いができたのは、生きる喜びを教えてくれる気仙沼での出会いと経験を自分と照らし合わせ続けたからなのではないかと感じています。

Camp 4期スタッフ

Manami Takahashi

高橋愛満



一般に、「社会」や「他者」のための行動は大切だといわれます。一方、一番身近な存在である「自分」の想いに向き合う時間や機会が普段の生活の中にどれくらいあるでしょうか。SOKOAGE CAMPでは、自分と、そしてスタッフやキャンパーとの対話や何気ない会話を通して、ありのままの自分に寄り添い、内面にじっくり耳を傾けます。自分を変えたい、より前に進みたいと考えている人にとっては、このような時間が次のエネルギーを生み出す火種になるはずです。



SOKOAGE CAMP とは、大学生向けのプログラムです。全国から大学生が集まり、自分はどようありたいのか、どよう動いていくのかを考えます。1週間気仙沼で合宿をし、徹底的に自分と向き合い、対話する。新しい価値観にふれあい、視野を広げる。そして合宿を終えたあと日常に戻り、仲間とともに進んでいく。底上げは彼らに寄り添いプログラムを進めていく中でそんな環境を作っていきます。



Camp 6 期



Shota Takamoto
高本翔太
中央大学 4 年

参加前は他人と比べて落ち込んだり、自分に言い訳をすることが多くありました。そんな自分を変えたいと思い『SOKOAGE CAMP』に参加しました。自分が否定されないという安心感があり、問を与えてくれる存在がいることがキャンプの特徴でした。そんな空間で6日間、自分の感じたことを大切に過ごしました。そしてキャンプを通して「ゆっくり自分のペースで」というマインドと「今の自分の行動は過去の自分や他人が決めるのではなく、今の自分次第である」という考えに至りました。キャンプ後は日々、今の自分の状態を確かめ、認めながらゆっくり進んでいます。

Camp 4 期



Mikako Yokokura
横倉実可子
宮城学院女子大学 3 年

私はずっと仮面を被って生きてきました。ありのままの私を他者は認めてくれないような気がしていたからです。でも CAMP はそんな私を否定せず受け止めてくれて、そのおかげで自分と向き合うことができました。CAMP は一週間だけれど、そこで終わってしまう訳ではなく、気仙沼でもらった学びや愛や出会いはその後も深くなり大きくなり、続いています。だからこそ CAMP は私にとって人生の転機であり、はじまりであったのだと今感じています。

農業部

7年間のトータル

作業日数	参加人数	収穫量
150日	2100人	2100kg

にぎやか OL

Mizuki Irifuku
入福みずき



底上げ農業部の空気が、繋がりが、とてもとても大好きでした！農業は朝早くて寝坊ドタキャン何度もしたけれど、土、草、虫、素敵な仲間と美味しいご飯、綺麗な青空、茂木で過ごした日々は感謝しかありません！私のカオスな人生に爽やかな思い出をありがとうございます！！は～～楽しかった♡♡

チクチク先生

Mei Tominaga
冨永めい



底上げ農業部は、私の人生にとって、たくさんの大切な学びと出会いをくれました。みんなであい合って作業した茂木の日々の思い出が、私の記憶の中でキラキラ輝いています。ここで繋がったご縁を大切に、これからも生きていきたいです。本当にありがとうございました。

農業ランナー

Shigetaka Yoshimatsu
吉松茂貴



農業部とは、「一期一会の素敵な交流の場」でした。年間延べ130人もの参加者を集め、数々の出会いが刺激と充実で満ち溢れていました。農業部に留まらず、茂木観光や農業合宿や屋久島旅行や派生した登山部の活動など沢山の思い出が蘇ります。農業部は終わりますが、茂木の米作りは続けていきますので、ふらっと遊びに行きましょう！



会社員

Makoto Nagamori
長森誠



2012年に底上げ農業部に出会う前は、平日は仕事だけ、週末は婚活会場に通う根暗なサラリーマンでした。それが偶然、茂木の田んぼに行くイベントに参加して、そこでめいちゃんという可愛い女の子が一人でお米作るって聞いて、その日から週末は下心全開で茂木に通うようになりました。それからは田んぼで沢山のひとと出会い、農業を使わないで育てられた食べ物の大切さを学びました。めいちゃん、ありがとう！

MORI COFFEE ROASTERS

Takeo Mori
森 威郎



農業部は、お米を育てるだけではなく、農業を通じて多くのひととの出会い、多様な考え方に触れられる場でした。いつも新鮮で刺激的で農業部に関わったこの7年間は、自分を大きく成長させてくれたと思います。17年度をもって終了しますが、半分仕事のように本気で取り組んだので、終わる寂しさよりも達成感の方が強いです。個人的には田んぼの中での子育ても出来ましたし大満足の7年間でした。関わってくれた全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



活動終了しました。
ありがとうございました。

底上げ農業部は、2017年度をもって終了することになりました。底上げ田んぼを通して、本当に多くの出会いや貴重な体験がありました。参加して下さった方、応援して下さいました方、見守って下さった方、7年間、本当にありがとうございました。

底上げニュース

2017年度



成宮、アメリカへ！

東北の高校生が100名アメリカに行き、Y-PLANという地域課題の解決プロセスを学び、自分の地元のためにできるアクションプランを考え実践する、「TOMODACHI ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム」。その宮城サポートメンバーとして2017年夏に渡米いたしました！

帰国後も気仙沼のみならず、宮城の様々な地域に行き、高校生の伴走を行ってまいりました。これからも自らの思いに沿って主体的に行動する高校生が東北で多く増えていくようにしっかりと伴走を続けていきたいと思っております！



底上げキッチン開催！

底上げとつながった人たちが緩やかに集える場を関東でも作っています。

多様な人がご飯を食べながらつながりを持つことで、日常に小さな変化が起き、そこから新しいことが生まれていく。そんな機会になればいいなと思っています。



底上げ研修、 京都に上陸！

拠点・持続可能というテーマで京都に研修に行っていました。初日はヒューマンフォーラムの研修施設を訪れ、拠点に必要な要素を考え、翌日はアマタホールディングスの熊野会長と一緒にこれからの教育について考えるイベントを実施しました。



てる誕生

とにかく息子には柔軟な価値観を得てもらいたいと思う今日この頃です。



人間力大賞 ファイナリストに選出！

底上げ事務局長の成宮が、日本青年会議所主催「第31回人間力大賞」にて、書類選考などを経て、ファイナリスト20名に選ばれ、2017年7月23日に横浜で行われた受賞式典に出席、会頭特別賞を受賞いたしました。ご推薦、ご協力いただいた気仙沼青年会議所のみならずには本当に感謝しております。自分に人間力が伴っているのか疑問を抱える毎日ですが、今後の活動にも期待をこめてご支援いただいた皆様の気持ちにしっかりと応えていけるように、個人の人間力や、地域に貢献できる活動をより磨いていきたいと思っております。



結婚しました！！！！はい！僕、今、とても幸せです！！
2017年の8月に入籍、横浜で結婚式を挙げました。結婚式には、ご両家の皆様、大切な友人たち、気仙沼からの恩人にも参加いただきとてもハッピーな時間を過ごすことができました。映像や装飾、引き出物など、自分たちや多くの友人の手作りによって飾ることができ、本当に素晴らしい空間を作ることができました！これからも未長く幸せに妻・未来と共に歩んでまいります！！

ばかだなあ！底上げ！

！語ってみました！



Airi Abe
阿部愛里

気仙沼出身。高校時代に底上げと出会い亜美とともに「底上げYouth」の立ち上げを行う。大学4年。最近の楽しみは矢部息子の成長を見守ること♡



Ami Miura
三浦亜美

気仙沼市出身。高校時代「底上げYouth」を立ち上げ活動を行う。現在社会人1年目、香りの会社で感性磨き中！好きな食べ物、親子丼。



Akihiro Nakamura
中村彬裕

東京大学教育学部3年生。入学直後に大学を1年休学して東北へ、底上げで半年間のインターン。現在はオランダに留学中。好きな食べ物、お母さんが作った餃子。



あっきー（以下中村）さいきん元気？

あみ（以下三浦）元気だよ！

中村あいりの太鼓のプロジェクトはどんなの？

あいり（以下阿部）日々学びがあって楽しいよ！ちょっと工夫しただけで子どもたちの表情や取り組む姿勢が一変するの。底上げもきっと私達と関わる時間はそういう感覚なんだろうね。私達が高校生の時もそうだったと思う。ちょっと工夫して伝えると、それを私たちはすぐ吸収したし、すぐアウトプットが出てきただろうから。そこがけっこう楽しかったんだろうなって。

中村なるほど…っていうかさ、気仙沼の高校生ってめっちゃ素直だね？

三浦私、社会人になって会社の人から「すごいピュアだね」って言われるんだよね。外の人には気仙沼の高校生って素直だったというけど、素直だったというより世間知らずだったんだなって自分見て思う。(笑)何も知らなかったから真っ白で純粋だった。だからよかったというよりはちゃんと経験とか知識がなかったんだなって思う。

中村そういうことか！(笑)てか、Youthの

メンバーはずっと仲良いよね。

三浦仲良いと思うよ。今も帰省した時は家いるよりみんなと会っている方が長い。

阿部ただ遊んでいた仲じゃなくて、ミッションがあって集まってたからめっちゃ仲良くなったんじゃない？結構何でもさらけ出したし、語るどころまで語り尽くして、それでも一緒にいたからね。だからこそ今も一人一人の存在や成長が気になる！

中村そうだね。みんな働き始めて環境も変わったからね。俺はあみちゃんが一番大変そうだと勝手に思ってる。(笑)

三浦私は誰よりも大変な自信はある。(笑)でも成長できると思う。気仙沼で香り使いたいとか、海の香りを高校生と作ってみたいとか、もうすでに考えてるんだ。

中村気仙沼で、やっていることを活かすっていうのは、会社を探している段階から念頭にあったの？

三浦会社を探している段階からはなかった。底上げと出会って考え方が変わった。

Youthを始めた時に行き詰まる矢部さんから「そんなわくわくしてないことやなくて

いい」って言われて。ゆっけさんは「豊かに生きるのがテーマ」と言ってる。高校生の時の私は「はあ？」って感じだった。

一同笑

三浦最初は何言ってるの？って思ってたけど、Youthもわくわくしていたから続けられた。“やっぱり楽しくなかったらやる意味ないよな”とか“豊かでありたいよな”とか考えるようになってた。大学に入ってから、ロールプレイング気仙沼も始めた。今ももっとわくわくしたいとか豊かになりたいなっていうのがある！だから香りとお会った時に、香りがあることで豊かになれるっていうのを実感して「これやばい！」って思ったの。“豊かになる”を香りはちゃんと体感として示してくれる。それでビジネスしたり、高校生と香りを作るワークショップもやっているから「これこれ！」って！香りって非言語だし、言語でも伝えるのが、理解する人の方が少ないけど私は香りの豊かさがわかる。阿部「豊かさとか楽しさってこういうことだな」っていうことが体感としてあるんだろうね。三浦説明しなくても、目に見えなくても感じ

られる。その感覚がすんなり入ってくるのは、選べば底上げとの関係からはじまったのかなって思う。

阿部私もその感覚あるな。私は楽しい空間を作りたくて、よく仲間に楽しい空間を創るためには自分たち一人ひとりが楽しまなきゃいけないよって共有してる。毎回いろんな反省が出てきて、それを解決してより良くなっていくプロセスが、高校の時にやっていたことにすごく似ている。めっちゃめっちゃ楽しい空間を知っているからこそ、そこに近づけようって思ってる。

底上げに何をしてもらったかっていうと、こういうプロセス、大事な感覚っていうのを、しっかりもらったなっていう気がする。

三浦「ただただ毎日が楽しいよ！」って思える自分をくれたっていう感じがする。

阿部失敗したとしてもなんか笑えるみたいな。できないことを深刻にならず面白いと思える。とかね。(笑)

三浦悲しいとか怒りみたいな、底上げと付き合ってからあんまりないよね。

中村どうい感情が一番多かったの？

三浦楽しいとか嬉しいとか。でも「ばかだなあ」って感覚が一番大きい。(笑)でもこれでいいんだって思えだし、結局楽しそうだからそういう話に入りたいなって思えた。それに底上げが「一緒にやろうよ」って言うってくれるから自分もやっちゃうみたいなの。中村あみちゃんを見てても「ばかだなあ」って思うことあるよ(笑)

三浦やっぱさ、「かっこいいー！」よりも「ばかだなあ〜」って、いいよね。(笑)ただ底上げが神様のような存在だったら恐れ多くていつまでも尊敬してます！みたいな関係性が続いていたのかもしれないけど、「ばかだなあ」が至るところにあったおかげで一緒にいられたし、関係性も支援者と被災者ってならなかった。感謝の気持ちも持てたからよかったんだろうな。その思いが後のわくわくとか豊かさにつながった気がする。

中村「あいつらがあれやってるから自分たちもこのくらいバカなことできるな」っていう気になるよね。突き抜けてるから。

阿部きれいなバカのお手本だね。なかなか見たことない。一回り上の大人が高校生とどうやって仲良くするかって手段ないじゃん？そこをバカっていう武器で突破して来るっていうのは強みだね。底上げの。(笑)

三浦私達、さっきからバカって言いすぎじゃない？(笑)でも本当に行き詰まってるときは話を聞いてくれたり、常に応援してくれたり、核心ついたこと言ってくれたり。そのバランスが大人だなんて今は思う。底上げすごいな。私バカにはなれるけど、ちゃんとした確に欲しい時に欲しい言葉をくれる底上げにはなれない。

阿部そう！欲しい言葉をくれるあの力はすご

いんだよね。私もそういう風になりたいとは思っている。そういうのがわかるから SOKOAGE CAMP ができるんだよ。

三浦待つ力もすごいと思う。

阿部待つのは信じてくれているからね。私たちのこと。リーフレットができたのは発足してから一年後くらいだからね。

中村待ってもらってよかったっていう感覚ってあるの？

阿部自分達で作ったっていう感覚はすごいある。やらされた感まったくない。

三浦一番大きかったのは、リーフレットがまだできてなかったけど底上げ Youth の活動を半年間した成果を地元の人たちに発表した時。市民会館のホールで発表して終わった瞬間、大号泣だったの。なるさんがすごい泣いて、それでもらい泣きだったんだけど。ああいう涙は、本当に待ってくれたからだと思う。待ってくれなくてもリーフレットはできたけど、あの涙は時間とみんなの頑張りがないと泣けないじゃん。

阿部あの涙に変えられるものはないね、まだ。三浦煙雲館のリーフレットができた時にメディアに載って、それをみて東京の人たちが訪れたっていう報告を受けた時も嬉しくて泣いたのは覚えている。

阿部わたしたちは観光を盛り上げたいって言ってたけど、リーフレット作っても観光客は来ないよってちょっと思ってたんだよね。でも一生懸命やったら、何人かが来てくれて。一步一步だよってずっと底上げから言われてたけど、すごい実感した。わくわくとか豊かとかバカとか、その言葉を感じてわかってるのは、言葉と体験が結びついているからだね。フィロソフィーみたいに。

三浦できる感覚を、動く楽しみを、生きる喜びを、すべての若者に。

中村そのフィロソフィーを底上げは感覚でやってるから、なんでそんなに共有できてるの？って思う。

三浦たしかに底上げは感覚でやってるからスケールしないかもしれないけど、私たちは感覚を受けて来たから、ああいう人になりたいってやっぱり思ってるんだよね。だからたとえ底上げがなくなったとしても「底上げイズム」みたいなものって引き継がれていって、それは長い目で見たスケールだと思う。

中村本当にそう。底上げに関わる人が豊かになったら、豊かになった人は絶対周りの人を豊かにするじゃん。なんかそうやってどんどん広がっていく感覚がすごいある。

三浦 Youth もみんな好きなものとか考え方も全然違う。でも誰も「豊かじゃない」「楽しくない」っていうのがなかった。みんな気仙沼嫌いですって言ってたのに、最終的には気仙沼に帰って来ますとか、そこまでなっちゃう。震災直後は全部失いました、死んだほうがマシですって言ってたのに、底上げと出会って数年でそこまでなる？って、私達、薬でも飲まれたのかな(笑)

阿部底上げと出会ってなかったら何人が大学に行っただろう。なんでその学校と学部を選んだんだろうね。

中村今回俺も二人が得て来た感覚を共有できてるっていうのがすごい嬉しかった。俺も底上げファミリーの一員なんだなって改めてすごい思った。

二人にも感想を聞いて終わりにしよう。

阿部底上げのことを語ってくださいっていう機会は結構あるけど、こんなに「ばか」っていったのは初めてかな。新しい気づきとしては、ばかっていうことを使ってどの年齢性別地域、カテゴリー関係なくグッと入っていて、人間としての強みだなと思った。かつそういう人が沢山いるから底上げの強みになっているんだなあと思った！

三浦わたしも底上げと出会って7年が経ち、語れば語るほど色々出てくる。思い出も常に更新されてるし、客観的にもファミリーとしても見れる。その中でせっかくこれだけ関わって来たなら、いいところは全部吸収して自分もそういう人になっていくしかないなって思う。底上げ男の人多いから女のパカはまだ少ないし、私も当時出会った時の底上げの歳になってくる。その時に私はすごくバカでも、誰かを応援できる存在になるぞって思った。あとやっぱり社会人になったし、底上げと一緒に気仙沼を盛り上げて行きたい。仕事を一緒にやりたいし、未来が楽しみだな豊かだなんて改めて思った！



底上げ卒業式！
スタッフからの賞状を手に



あっきーインターン時代

応援メッセージ



photo by Shotaiku Koh

Kumi Imamura
今村久美

認定 NPO 法人カタリバ代表理事

皆さんとの出会いは、震災から1年以上たったいつかの日。活動は同じようで文化が違う、互いのあり方をお見合いすることからはじまりました。大学入学したばかりのコミュ障な新入生が、クラスで目立っている同級生を見つけて、少し遠くから「あいつと俺は違う」と思いつつなんか気になって、周波数が合うのか、どこまで本気なのかと、顔色を確認していたような、そんな気分だったとも思います。

震災から7年。たくさん語り合い、一緒に未来を描き、葛藤も悩みも共有できる底上げの皆さんは、今では私達にとって、遠くて近い親友のような存在です。

あの頃も今も変わらず気仙沼で光を放ちつついてくれることに、心からの敬意と感謝を。



Shogo Toyota
豊田庄吾

隠岐国学習センター センター長

底上げは、僕たちにとって弟分だ。しかも、兄貴をはるかに超えた出来のいい弟分である。マイプロに関わる教育団体で作り上げた、伝説の「鎌倉カイギ」。全国から集まって切磋琢磨しあう高校生を尻目に、代表の矢部くんと熱く語りあった。それ以来、様々な場所で顔を合わせる機会が増え、次第に同志だと思えるようになってきた。海士町では意志ある未来をつくるために、地域に根ざした人づくりを行っている。そのために、地域の課題と対峙し、当事者性を持って課題解決に挑戦する高校生を、伴走し応援する取り組みが必要不可欠だ。われわれの一步先を行く、気仙沼の意志ある未来をつくる底上げの挑戦に、地域の未来を創る兄弟としてエールを送りたい。



Eisuke Kumano
熊野英介

アマタホールディングス株式会社 代表取締役
公益財団法人信賴資本財団理事長

7年前、未曾有の大震災が東北を襲う。そんな時、経済大国日本の大企業は、リスク分析に明け暮れ右往左往して停止状態。官公庁は、同意形成に時間を続け意思決定は停滞を続けていた。そんな状態の中、やむにやまれぬ思いにかられ、余震が続く被災地に軽トラックに日常必需品を積んで入る者や同様の思いでテント生活をしながらボランティア活動続ける者や被災地の出身で後先考えず、地元に戻る者。そのような多くの名も無き勇者が被災地に集まる。今の底上げのメンバーもそんな出会いから始まる。遣伝子は、「あきらめない!」という意志。底上げの活動に未来への希望を感じるのは、私だけではないでしょう。応援しています。



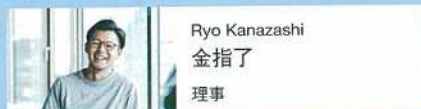
Atsushi Tooyama
藤山篤

気仙沼市教育委員会学校教育課
課長補佐兼指導係長 (指導主事)

人口減少、高齢化・少子化が進むこの気仙沼で、学校教育や教育委員会が行いたくても行えない部分をも、復興・地域創生の担い手になり得る若い力の育成に取り組んでいただいています。底上げの成宮さん、斉藤さんと一緒に活動させていただき、思うことは、感謝、尊敬しかありません。これからも“ないものはないまち(でも、見つけられていない人が多い) = 気仙沼”の持続可能な発展に協力、いや、中心になって活躍し続けてほしいと願っております。

そこそこ団メッセージ

今年度より賛助会員制度として 「そこそこ団発足しました！」



Ryo Kanazashi
金指了
理事

一番難しいと感じている、本当に大切なことを当たり前にやるということにチャレンジしている、底上げの新たな取り組みにはいつもワクワクします。一緒に歩めること楽しみです。



Takahiko Kinai
喜内尚彦
理事

底上げは「若者との伴奏」で、選択の幅を広げる大事な経験を創り続けています。ワクワクする人生のために。奮闘する底上げに、ぜひともご協力ください！



Mizuki Irifuku
入福みずき
会員

底上げの素敵みなさまとハッピーで楽しいことにいつまでも取り組んでいきたいです！！底上げらぶ！！



Yuuki Amagai
天貝祐樹
理事

底上げ！いけ！でっけー、崖超えろ！
駆け抜けろ！明け暮れろ！
そう、ここに集まるとともに see you again!



Daichi Kakuta
角田大智
会員

底上げは、心から応援している支援者として、そこそこ団は団を作っていく仲間として、これからも応援しています！！



Issei Hirono
廣野一誠
アサヤ株式会社 会員

そこそこ団の一員として、真面目なことを悪ふざけしながら楽しく取り組みたいと思っています。仲良くしてやってください！



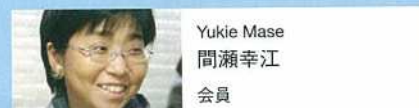
Smith Soshia Mitsunaga
スミス光永奏者
理事

そこそこ団の集まりには、なんかわからない、ひめた力を、感じるのだ！！底上げばわー！！



Akane Mikasa
三笠茜
会員

どんなときも本気で関わってくださる皆さん。一緒に過ごせる時間は財産です！



Yukie Mase
間瀬幸江
会員

底上げに関わっている皆さんのまっすぐさに、いつも励まされる思いです。



Masaki Takizawa
滝澤正樹
会員

迷いの多い40歳が迷いなく入団しました。不惑になれるよう、自分をそこそこ底上げします。



Kenji Yamazaki
山崎賢治
監事

そこそこ団は何を企んでいるかって？きっと明日が来るのが待ちきれない生きることが大好きな若者で街を一杯にしよう企みだな！！



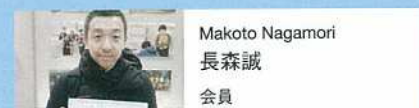
Minoru Sakuramoto
櫻本稔
会員

昨年春から気仙沼信用金庫で創業・企業支援に携わってます。底上げの活動にいつも刺激をもらっています！



Akira Hayakawa
早川輝
会員

底上げの皆さんからの応援は本当に心強い！いつも近くで背中を押してもらえる気仙沼の高校生が羨ましいです。



Makoto Nagamori
長森誠
会員

いつも底上げさんの活動に刺激をもらっています。せっかくそこそこ団に入団させてもらったので、他の会員の皆さんと一緒に楽しみながら、自分のやりたい事も具現化していきたいです。よろしく願います！

「楽しい事やる、絶対！」

のキャッチコピーにお集まりいただいた皆様と、行動するコミュニティを作っていきます。2018年度も引き続き団員募集中です！

詳しくは23P会員制度についてをご確認ください。

助成・寄付団体



みんなでがんばろ5●日本

公益財団法人東日本大震災復興支援財団



NPO等の絆力を活かした
復興・被災者支援事業交付金

エルメス財団

その他多数のご支援・ご寄付を有難うございます。

メディア

日付	メディア名	見出し/番組名/出演者
毎月第3水曜日	ラジオ気仙沼	底上げカフェ
2017.6	地域支え合い情報	底上げ Drinks
2017.9.2	NHK 総合	証言記録スペシャル/いつかくる日のために～被災地支援～/矢部
2017.10.24	NHK 宮城	てれまさむね/成宮
2017.10	三陸新報	気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード合宿
2017.12	しんぎんの絆ニュースレーター	底上げ
2017.1	三陸新報	気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード最終報告会
2018.1	河北新報	気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード最終報告会
2018.1	K-NET	気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード最終報告会



収支報告

平成 29 年活動計算書 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日まで)

科目		金額		
1. 経常収益				
1. 受取会費				
正会員受取会費	140,000			
賛助会員受取会費	273,000	913,000		
2. 受取寄附金				
受取寄附金	11,423,126	11,423,126		
3. 受取助成金等				
受取助成金等	22,082,050			
4. 事業収益				
事業収益	0	0	34,018,174	
5. その他収益				
受取利息	234			
雑収入 (注)	6,402,902	6,483,137		
経常収益計			46,501,313	
II 経常費用				
1. 事業費				
(1) 人件費				
役員報酬	6,120,000			
給料手当	8,688,000			
人件費計	15,000,000			
(2) その他経費				
法定福利費	1,541,232			
会議費	378,944			
経費交通費	1,741,256			
通信費	493,844			
消耗品費	250,610			
印刷費	2,234,706			
水道光熱費	319,349			
新聞図書費	6,309			
雑費	9,405			
支払手数料	31,511			
車両費	322,867			
地代家賃	1,644,919			
保険料	148,182			
雑税公課	34,770			
減価償却費	142,482			
印刷製本費	229,709			
謝金	493,908			
雑費	23,908			
その他経費計	10,253,431			
事業費計		25,253,431		
2. 管理費				
(1) 人件費				
人件費計	0			
(2) その他経費				
法定福利費	603,628			
会議費	49,219			
経費交通費	285,802			
通信費	97,294			
消耗品費	133,165			
印刷費	909,736			
水道光熱費	149,683			
新聞図書費	3,979			
雑費	2,569			
支払手数料	12,887			
車両費	81,026			
地代家賃	296,422			
保険料	62,664			
租税公課	16,660			
減価償却費	61,063			
印刷製本費	64,926			
謝金	94,532			
雑費	17,200			
その他経費計	3,006,717			
管理費計		3,006,717		
経常費用計			28,254,168	
III 経常外収益				
経常外収益			0	
IV 経常外費用				
経常外費用計			0	
税引前当期正味財産増減額				
税引前当期正味財産増減額			12,247,145	
法人税、住民税及び事業税			33	
当期正味財産増減額			12,247,112	
前期繰越正味財産加			16,283,222	
次期繰越正味財産加			28,530,334	

(注)雑収入 6,502,904円のうち2,082,000円はICM等寄附収入、3,600,504円は謝金収入となっております。
 ※ 今年度はその他の事業を実施していません。

計算書類の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO 法人会計基準 (2010 年 7 月 20 日 2011 年 11 月 20 日一部改正 NPO 法人会計基準協議会) によっています。
 消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 事業別損益の状況

科目	役員主任に任 命された者に対する 役員報酬	賛助者の自己 負担事業	ボランティアの 活動と損益の 別出事業		事業部門別	管理部門	合計
			ボランティアの 活動と損益の 別出事業	ボランティアの 活動と損益の 別出事業			
1. 経常収益							
1. 受取会費	0	307,800	51,300	339,100	133,900		513,000
2. 受取寄附金	0	6,833,876	1,142,313	7,996,189	3,426,917		11,423,126
3. 受取助成金等	0	17,528,490	699,484	17,967,974	4,114,136		22,082,050
4. 事業収益	0	0	0	0	0		0
5. その他収益	0	0	0	0	0		0
受取利息	0	140	23	163	71		234
雑収入	0	3,880,242	235,665	4,224,907	2,228,096		6,482,902
経常収益計	0	28,379,988	2,168,183	30,548,171	9,933,140		46,501,313
II 経常費用							
(1) 人件費							
役員報酬	0	6,120,000	0	6,120,000	0		6,120,000
給料手当	0	8,880,000	0	8,880,000	0		8,880,000
人件費計	0	15,000,000	0	15,000,000	0		15,000,000
(2) その他経費							
法定福利費	0	1,321,056	228,176	1,549,232	640,528		2,201,760
会議費	0	367,250	11,194	378,444	49,219		428,183
経費交通費	0	1,715,258	25,988	1,741,256	283,402		2,027,058
通信費	0	474,985	20,839	495,844	97,294		593,138
消耗品費	0	318,918	11,672	330,610	133,505		484,115
印刷費	0	1,933,277	299,429	2,234,706	909,736		3,225,462
水道光熱費	0	280,805	39,243	319,248	148,683		460,031
新聞図書費	0	3,980	990	4,950	2,970		9,900
謝金	0	5,160	860	6,020	2,580		8,600
支払手数料	0	28,175	3,756	31,931	12,887		44,798
車両費	0	315,801	7,266	322,867	51,026		373,893
地代家賃	0	1,577,249	67,170	1,644,919	256,422		1,901,341
保険料	0	127,295	20,888	148,183	62,664		210,847
租税公課	0	33,270	3,300	36,790	16,680		55,450
減価償却費	0	122,128	20,355	142,483	61,063		203,546
印刷製本費	0	328,608	1,092	329,700	64,926		394,626
謝金	0	473,064	20,844	493,908	94,532		588,440
雑費	0	23,800	0	23,800	17,200		43,000
その他経費計	0	9,475,569	777,882	10,253,431	3,006,717		13,234,168
経常費用計	0	24,475,569	777,882	25,253,431	3,006,717		28,234,168
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	33		33
当期経常増減額	0	3,994,419	1,390,303	5,274,722	6,926,396		12,247,112

認定 NPO 法人底上げについて

所在地

〒 988-0023 宮城県気仙沼市南が丘 2-2-12

TEL 0226-25-9670 FAX 0226-25-9670

Email info@sokoage.org

http://www.sokoage.org/

facebook でプログラム情報を配信中！



認定 NPO 法人
底上げ



底上げ Youth



SOKOAGE
CAMP

運営体制

理事長	矢部寛明	理事	野間口侑基
副理事長	齋藤祐輔		齋藤裕輔
理事兼事務局長	成宮崇史		中野健二郎
南三陸スタッフ	野田篤秀		天貝祐樹
スタッフ	江川沙織		金指了
インターン	岡颯紀		喜内尚彦
	阿部愛里		スミス光永奏者
	倉金恭子	監事	山崎賢治
	藤沢慶子	顧問税理士	滝澤正樹
	清野ひかる		
	中藤健		

ご寄付について

皆様からご支援頂いた寄付金は、復興支援事業、地域の若者育成事業、交流事業に使わせていただきます。

認定 NPO 法人底上げの活動にご賛同頂ける方からの温かいご支援をお待ちしております。

ゆうちょ銀行

口座種別：振替口座

口座名：特定非営利活動法人底上げ

記号番号：02290-9-120905

寄付金控除には領収書が必要になりますので、振込にてご寄付頂く場合は、通信欄へのお名前、ご住所、お電話番号の記入をお願いいたします。

会員制度について

ご支援はフォームを入力頂きました方へ送信するメールに記載された銀行口座宛にお振込みをお願いいたします。

- ご寄付 1口 1,000円（何口でも）
- 賛助会員（そこそこ団） 年会費 個人 12,000円／年
団体 50,000円／年

※賛助会員にお申込みの方は申込フォームに入力頂いた内容を会員申込情報としてお預かりいたします。

※納入されたご寄付、年会費の返却は致しかねます。

※賛助会員資格は9月30日までとなり、10月1日更新となります。

申し込み
フォーム



会員募集中

寄付金控除について

特定非営利活動法人底上げは平成28年7月27日付けで、宮城県より「認定特定非営利活動法人（認定NPO）」として認定されました。これにより、平成28年7月27日以降に寄付いただいた金額は、税制優遇の対象となります。

ご寄付いただきましたみなさまには当法人より、お名前、ご住所等必要事項を記した領収証を発行しております。確定申告時に申告していただくことで、税額控除ないしは所得控除を受ける事が可能になります。

詳しくは最寄りの税務署にご相談いただけますよう、お願い致します。



2018 年度も

底上げます

